# 令和４年度当初予算案　補足説明資料（教育委員会関係）
# （令和３年度２月経済対策補正予算（案）含む）

（新）（拡）・・・新規・拡充事業


Ⅰ 「生きる力」を育む教育の推進

◆ 「確かな学力」の育成

１ （新） 兵庫型学習システムの推進 ～35人学級と教科担任制の導入を踏まえた指導体制の推進～ p1

２ （新） 県立高等学校教育改革第三次実施計画の推進 p3

３ （新） ひょうごリーディングハイスクール p4

４ （新） ひょうごネットモラルパワーアップ事業 p5

◆ 「豊かな心」の育成

５ （新） 心のバリアフリー推進事業 p6

６ （新） ひょうごっ子ドリームプロジェクト事業 p7

７ （新） ひょうごＳＤＧｓスクールアワード２０２２ p8

◆ 兵庫型「キャリア教育」の推進

８ （拡） 小・中・高12年間を繋ぐキャリア教育充実事業 p9

◆ 特別支援教育の推進

９ （拡） むこがわ特別支援学校の整備 p10

１０ （拡） 阪神北地域新設特別支援学校（仮称）の整備 p11

Ⅱ 子どもたちの学びを支える環境の充実

◆ 学校の組織力強化

１１ （新） 学校問題サポートチームの設置 p12

◆ 修学環境の整備・充実

１２ （新） 県立学校における農業教育の高度化事業［令和３年度２月経済対策補正対応］ p13

１３ （新） 県立学校ＩＣＴ利活用サポートセンター設置事業 p14

Ⅲ 人生100年を通じた県民の学びの推進

◆ 主体的に生きるための学びと場の充実

１４ （新） 県民プレミアム芸術デーの開催 p15

１５ （新） ひとはく開館30周年記念事業 p16

１６ （新） 大中遺跡発見60周年記念･大中遺跡の魅力発信事業 p17

◆ 「する・みる・ささえる」スポーツ環境づくりの推進

１７ （新） 第２期兵庫県スポーツ推進計画に係る地域スポーツ活性化への支援 p18

１８ （拡） スポーツ大会招致事業の実施（アーバンスポーツへの支援を追加） p19

# 令和４年度当初予算案　補足説明資料

| 事業名 | （新）兵庫型学習システムの推進～35人学級と教科担任制の導入を踏まえた指導体制の推進～ | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 予算額（千円） | 0 | 国　庫 | 特　定 | 起　債 | 一　般 |
| | | 0 | 0 | 0 | 0 |

事業内容

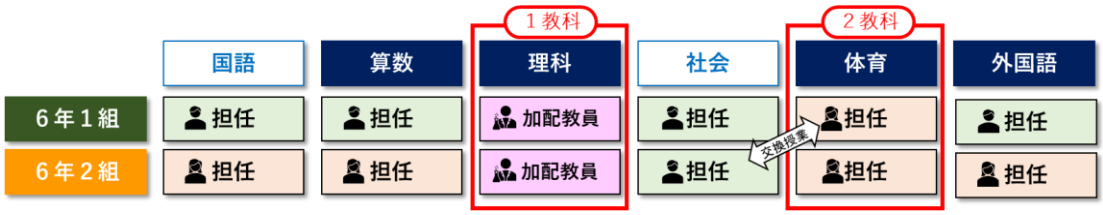
すべての子ども達の可能性を引き出すため、国の加配措置を最大限に活用し、一人一人に応じた学びの環境として「兵庫型学習システム」を構築し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善や、多面的な児童生徒理解に基づく指導の充実を図る。

**１　推進内容**

○　小学校・義務教育学校（前期課程）

小学校に教科担任加配を配置し、教科担任加配とこれまで兵庫県が独自に進めてきた学級担任の交換授業等を組み合わせ、国が指定した教科担任制の優先教科（算数、理科、体育、外国語）の指導の充実を図る。

【教科担任制のイメージ】（教科担任加配の配置状況により実施内容は異なります）
教科担任加配の配置校では、教科担任加配による教科指導と、学級担任の交換授業等を組み合わせ、教科担任制の優先教科の２教科以上で教科担任を実施する。




【推進メニュー】

・教科担任（算数・理科・体育）

学習が高度化する小学校高学年において、専門性の高い教科指導を行い、指導体制の充実を図る。

・教科担任（外国語）

外国語科及び外国語活動の効果的な指導方法について研究するとともに、指導体制の充実を図る。

・複式学級の指導体制

複式学級のシステム上、指導が困難な学年・教科の学習指導の充実を図り、教育課程の適切な実施を図る。

・少人数授業（令和５年度まで）

児童の発達段階や学習状況、学習内容に応じて、教員の協力指導（同室複数指導）や、少人数学習集団の編成（少人数指導）により、学習・生活習慣を確立させ、学力の定着や個性の伸長を図る。（小学校５・６年生での活用を基本とする。）

・３５人学級編制（令和４年度のみ）

１学級が３５人を超える学級集団を分割し、学習指導の充実や基本的な生活習慣の確立を図る。

○ 中学校・義務教育学校（後期課程）

各学校が数学や英語などの少人数授業と３５人学級編制（１学年を上限）を選択できるようにして、学校や生徒の実情に応じたきめ細かな指導の充実を図る。

【推進メニュー】

・少人数授業

学習内容や生徒の学力・学習状況に応じて、学年や学級を効果的な少人数学習集団に編成し、学力の確実な定着や個性の伸長を図る。

・３５人学級編制

１学級が３５人を超える学級集団を分割し、学習指導の充実や基本的な生活習慣の確立を図る。

・小学校高学年教科担任（算数・理科・体育・外国語）

中学校教員を活用して小学校高学年において専門性が高い教科担任を行い指導体制の充実を図る。

**２ 導入スケジュール**

<table>
<tr><th></th><th>校種</th><th>内容</th><th>Ｒ ４</th><th>Ｒ ５</th><th>Ｒ ６</th><th>Ｒ ７</th></tr>
<tr><td rowspan="2">国</td><td rowspan="2">小学校</td><td>３５人学級</td><td>１年～３年</td><td>１年～４年</td><td>１年～５年</td><td>１年～６年</td></tr>
<tr><td>教科担任制</td><td colspan="4">５年・６年への導入</td></tr>
<tr><td rowspan="3">兵庫県</td><td rowspan="2">小学校</td><td>３５人学級</td><td>４年</td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>教科担任制</td><td colspan="4">■教科担任加配（Ｒ５までは少人数授業加配としての活用も可）<br>‖ 組み合わせ<br>■学級担任による交換授業</td></tr>
<tr><td>中学校</td><td>３５人学級</td><td colspan="4">□少人数授業<br>⇳ 選択（１学年を上限）<br>□３５人学級編制</td></tr>
</table>

参考：令和３年度　新学習システム在り方検討委員会　提言

新学習システムあり方検討委員会での協議を踏まえ、新しい学習システムの構築にあたっては、以下の点に留意することが必要である。

【共通】

・国の加配教員を最大限に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげること。

・小学校高学年における兵庫型教科担任制など、兵庫県が独自に進めてきた新学習システムの良さを取り入れ、きめ細かな指導の充実を図ること。

【小学校】

・小学校６年生に３５人学級編制が導入される令和７年度の指導体制を見据えて段階的に新しい学習システムを導入し、移行が円滑に進むよう配慮すること。

【中学校】

・学校や生徒の実情に応じて、きめ細かな指導の充実を図ることができるよう、加配教員を学級担任として、新しい学習システムが推進できるようにすること。

| 担当課 | 教育委員会事務局義務教育課初等・中学校教育班 | 連絡先 | 078-362-3771　（内線　5721） |
|---|---|---|---|

| 事業名 | (新)県立高等学校教育改革第三次実施計画の推進 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 予算額<br>(千円) | １１，２００ | 国　庫 | 特　定 | 起　債 | 一　般 |
| | | 11,200 | 0 | 0 | 0 |

事業内容

「県立高等学校教育改革第三次実施計画」（令和４年３月策定予定）に基づき、少子化等の社会変化に対応した魅力と活力ある高校のあり方や、それを実現するための適切な学校の規模と配置等を推進する。

**○ 普通科改革における新学科設置事業：11,200 千円【国庫】**

学校教育法施行規則一部改正による普通科改革を踏まえ、新学科設置を検討する学校に対し、学識経験者や大学等との連携や、カリキュラム開発を支援する。

- 申 請 校　5,600 千円×２校
- 対象期間　令和４年度
- 内　　容　新学科設置予定の高等学校に対し、設置が義務化されている関係機関等との連携協力体制の整備や、配置が努力義務化されているコーディネーターを配置し、カリキュラム開発等のモデル事業を実施する

| 担当課 | 教育委員会事務局高校教育課高校教育改革班 | 連絡先 | 078-362-3817　（内線 5821） |
|---|---|---|---|

| 事業名 | （新）ひょうごリーディングハイスクール | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 予算額<br>(千円) | ５，０００ | 国　庫 | 特　定 | 起　債 | 一　般 |
| | | 0 | 0 | 0 | 5,000 |

事業内容

社会変化に柔軟に対応できる力を育成する教育活動を推進する高校を支援し、本県ならではの魅力・特色ある高校づくりを促進

○ 指　定　校　10 校/年
○ 内　　容

| 取組内容 | 開催回数 | 実施内容 |
|---|---|---|
| ①ｶﾘｷｭﾗﾑ開発委員会（※１） | ２回 | ｶﾘｷｭﾗﾑに位置づける講演会の設定、県内の大学・企業における実習計画の作成 |
| ②ｶﾘｷｭﾗﾑ開発ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰの派遣 | ５回 | 授業展開及び年間指導計画の作成等ｶﾘｷｭﾗﾑ開発へ助言、関係機関との調整 |
| ③専門家による講演会 | １回 | 各学校作成のｶﾘｷｭﾗﾑに応じた内容を設定 |
| ④関係機関での実習 | １回 | 大学における実習・講義等 |
| ⑤成果発表会（※２） | １回 | 生徒の探究活動の発表等 |

（※１）委　員：大学教授２人、地元企業・NPO・PTA 等３人
（※２）参加者：小中学校関係者、地域住民、県立学校教員、生徒

（成 果 指 標）

| 指標名 | 現状値 | R4 | R5 | R6 | 最終目標 |
|---|---|---|---|---|---|
| 高校の魅力・特色を高校選択の理由にした生徒の割合 | 83% | － | 86% | 87% | 87% |

（事 業 終 期）令和６年度

（参考）教育課程編成の例

| | | |
|---|---|---|
| 地域で活躍する教育者の育成 | ➡ | 教育系大学や地元の小中学校等と連携した教育理論及び教育実践を体系的に学ぶ教育課程を編成 |
| 国際的に活躍できる人材の育成 | ➡ | 国際系学部・大学や官公庁等と連携した国際経済や国際法等を学ぶ教育課程を編成 |

| 担当課 | 教育委員会事務局高校教育課教育指導班 | 連絡先 | 078-362-9447　（内線 5712） |
|---|---|---|---|

| 事業名 | (新)ひょうごネットモラルパワーアップ事業 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 予算額<br>(千円) | １，８７８ | 国　庫 | 特　定 | 起　債 | 一　般 |
| | | 0 | 0 | 0 | 1,878 |

事業内容

児童生徒への情報モラル指導や教員自身の情報リテラシー向上を図るため、教材及び研修資料の作成を行い、児童生徒の発達段階に応じた情報モラル教育を推進する。

**１　ネットモラル教材「ひょうごネットモラルノート」（仮称）の作成**

○内　　容　授業等で利用するネットモラルに関する学習教材の作成
・全６種類（小学校低学年用・中学年用・高学年用・中学生用・高校生用・教員用指導資料）
○対　　象　県内全小・中・高校生及び教員
○配布方法　電子媒体（PDF）（児童生徒の学習用端末を活用）
○作成方法　作成委員会（４回程度）

**２　校内研修資料の作成**

○内　　容　子どもたちのインターネット利用に関する最新の情報を踏まえた研修資料の作成
・ネット利用に関する時事課題
・スマートフォンやゲーム機の進化
・ネット依存
・子どもがよく利用するアプリ等の危険性　等
○対　　象　県内教職員
○配布方法　教育企画課ホームページに資料を掲載
○作成方法　事務局にて作成

**３　ネットモラル研修会の開催**

○内　　容　作成した教材及び研修資料を活用した講義・演習等
○対　　象　各学校情報教育担当者
○実施方法　県立学校：１回
市町立学校：１回（各教育事務所単位）

| 担当課 | 教育委員会事務局教育企画課教育情報班 | 連絡先 | 078-362-3779　（内線 5746） |
|---|---|---|---|

| 事業名 | (新)心のバリアフリー推進事業 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 予算額(千円) | ６，３６７ | 国　庫 | 特　定 | 起　債 | 一　般 |
| | | 0 | 0 | 0 | 6,367 |

事業内容

特別支援学校幼児児童生徒の自立と社会参加に向け、居住地域との交流を促進するため、交流・体験活動を実施

**１　協議会の開催：247 千円**

| 区　分 | 回　数 | 対象者 | 内　容 |
|---|---|---|---|
| 運営協議会 | ２回 | 特別支援学校、市町教育委員会、医療・福祉関係機関等 | 指導方法や副籍実施上の課題検討、先進事例の講演等 |
| 研究協議会 | １回 | 特別支援学校、市町教育委員会、特別支援教育ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ等 | 指導研修、授業参観、指導助言、ﾊﾟﾗｽﾎﾟｰﾂ等の講演等 |

**２　交流体験活動：6,120 千円**

○ 内　　容　地元行事への参加、副籍校との交流活動、自然体験活動
○ 実 施 校 数　特別支援学校　45 校
○ 対 象 経 費　170 千円/校（市立学校へは補助金として交付（補助率 1/2））

（成 果 指 標）

| 指標名 | 現状値 | R4 | R5 | R6 | R7 | R8 | R9 | 最終目標 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 居住地校交流の実施率 | 35.3% | 37.4% | 39.5% | 41.6% | 43.7% | 45.8% | 47.9% | R10 年度 50% |

（見直し基準）令和５年度に目標値(37.4%)の 1/2(36.3%)を下回る場合、見直し

| 担当課 | 教育委員会事務局特別支援教育課教育推進班 | 連絡先 | 078-362-3774　（内線 5726 ） |
|---|---|---|---|

| 事業名 | （新）ひょうごっ子ドリームプロジェクト事業 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 予算額（千円） | 0 | 国　庫 | 特　定 | 起　債 | 一　般 |
| | | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 事業内容 | 児童生徒の自尊心･自立心や夢を持って主体的に行動できる力を育成するため、県内すべての子ども達が仲間との協力・協働によりチャレンジできる活動に取り組む。<br><br>○ 対　　象　全公立小・中・義務教育学校<br>○ 活 動 例　児童生徒が校区の良さや特徴を表現し、クラスや学校として一つの作品を創り上げる<br>クラスや学校単位で創意工夫してチャレンジできる種目に挑戦する<br><br>【活動例】 | | | | |
| 担当課 | 教育委員会事務局義務教育課初等・中学校教育班 | 連絡先 | 078-362-3771　（内線 5721） | | |

| 事業名 | （新）ひょうごSDGsスクールアワード2022 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 予算額（千円） | 0 | 国　庫 | 特　定 | 起　債 | 一　般 |
| | | 0 | 0 | 0 | 0 |

事業内容

子ども達のＳＤＧｓに対する関心や未来につながる地域づくり活動への意欲を高め、将来の地域の担い手を育成するとともに、地域の良さを再認識し、地域への愛着を深めるため、兵庫県内の学校園において、子ども達が主体となって取り組んでいるＳＤＧｓの目標達成につながる活動を表彰する。

○ 対　象

兵庫県内の幼稚園、認定こども園、保育所、小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校、特別支援学校

○ 具体的な流れ

① 学校園での子どもが主体のＳＤＧｓの取組を募集

② 動画やパワーポイント等にまとめて提出（プレゼンテーションも審査対象）

【まとめる観点例】

・取組をはじめたきっかけ
・具体的な取組を行っている様子
・取組の課程を重視した子どもたちの変容　等

③ 優秀校を表彰

| 担当課 | 教育委員会事務局義務教育課初等・中学校教育班 | 連絡先 | 078-362-3771　（内線 5721） |
|---|---|---|---|

| 事業名 | （拡）小・中・高 12 年間を繋ぐキャリア教育充実事業 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 予算額<br>(千円) | １，８１９ | 国　庫 | 特　定 | 起　債 | 一　般 |
| | | 0 | 0 | 0 | 1,819 |

事業内容

将来、社会の中で自立するために必要な能力を育成するため、兵庫版「キャリア・パスポート」や「高校生キャリアノートモデル」、文部科学省が策定した「高校生のライフプランニング」を活用するなど、小・中・高等学校が連携し、発達段階に応じたキャリア教育に取り組む。

**１（新）キャリア教育推進委員会の開催**

○ 委員：14 人（学識経験者２人、関係者 12 人）
○ 回数：年３回
○ 内容：課題の分析、中学校・高等学校の校種間連携のあり方、効果的な兵庫版「キャリア・パスポート」の活用方法、研修資料の作成　等

**２ キャリア教育実態調査の実施**

これまでのキャリア教育における取組状況やキャリア教育による発達の効果や意識について統計調査を実施し、小・中学校における高等学校への学びの連続性を意識した取組の工夫・改善に繋げる。

○ 実施回数　年１回
○ 対　　象
　小・中学校　各 40 校
　高等学校　　10 校　　計 90 校

**３（新）地区別中高連絡会の開催**

○ 実施地域　県内９地域
○ 回　　数　年３回
○ 内　　容
・兵庫版「キャリア・パスポート」の高等学校への持ち上がりについての成果と課題
・兵庫版「キャリア・パスポート」の中学校での活用方法の改善点

〈参考〉これまでのキャリア教育関連事業

| 年度 | ～H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 事業名 | キャリアノート活用に関する研究事業（H27～H28） | 特別活動を要としたキャリア教育の充実事業 | | ９年間を通したキャリア教育の充実事業 | | 小中高１２年間をつなぐキャリア教育充実事業 | | |
| 取組内容 | ○キャリアノートモデルの作成・配布<br>○キャリア教育指導資料の作成・配布<br>○校内体制の整備<br>キャリア教育担当教員の設置 | ○１年目<br>特別活動を要としたキャリア教育の実践と評価の在り方を研究<br>○２年目<br>指導の手引きの作成・配布<br>○兵庫版「キャリア・パスポート」の作成 | | ○１年目<br>兵庫版「キャリア・パスポート」の校種間での効果的な引き継ぎについて研究<br>○２年目<br>実践事例集の作成・配布 | | 中高における学びの連続性を意識した兵庫版「キャリア・パスポート」の活用<br>○１年目<br>目指す方向性の共有（現状・課題の把握）<br>○２年目<br>接続を意識した学年・校種間の活用方法<br>○３年目<br>取組の検証・周知 | | |

| 担当課 | 教育委員会事務局義務教育課初等・中学校教育班 | 連絡先 | 078-362-3772　　(内線 5719) |
|---|---|---|---|

| 事業名 | （拡）むこがわ特別支援学校の整備 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 予算額<br>(千円) | ２，１５２，６７２ | 国　庫 | 特　定 | 起　債 | 一　般 |
| | | 112,092 | 0 | 1,741,600 | 298,980 |

事業内容

県立芦屋特別支援学校に通学する児童生徒数が増加し、狭隘化が課題となっていることから、新たな特別支援学校を整備する。また、隣接する阪神間の聴覚障害教育の中核拠点である県立こばと聴覚特別支援学校が老朽化していることから、一体的に整備し、多様なニーズに対応する学校とする。

**１　新たに整備する学校の概要**

○ 設置場所　　西宮市田近野町
　　（旧尼崎市立尼崎養護学校用地）
○ 開校時期　　令和４年４月（小・中学部）
　　令和６年４月（高等部・聴覚部門）
○ 対　　象　　知的障害のある児童生徒及び
　　聴覚障害のある幼児
○ 設置学部　　（知的障害）小・中学部、高等部
　　（聴覚障害）保育相談部、幼稚部
○ 児童生徒数　　（知的障害）240人、（聴覚障害）42人
　　(予定)
○ 通学区域　　（知的障害）西宮市の一部、（聴覚障害）県下全域

**２　校舎等の規模**

| | | 延床面積（㎡） | 主な内容 |
|---|---|---|---|
| 校舎 | 普通教室 | 約 2,500 | 普通教室・保育室 |
| | 特別教室 | 約 2,000 | 理科室、音楽室、陶芸室、美術室、被服室、調理室、木工室、コンピュータ室、作業室、福祉実習室、自立活動室、プレイルーム、言語学習室、聴力測定室、聴能訓練室　等 |
| | その他 | 約 6,300 | 校長室、事務室、職員室、会議室、保健室、特別支援教育相談室、図書室、多目的室、カウンセリングルーム、厨房・ランチルーム　等 |
| | 小　計 | 約 10,800 | |
| 体育館 | | 約1,600 | |
| プール | | 約200 | |
| 合　計 | | 約 12,600 | |

**３　総事業費**　　約 72 億円

**４　スケジュール**

令和４年度　　小・中学部開校
令和４～５年度　建築工事
令和６年度　　高等部・聴覚部門開校、既存校舎解体撤去、ｸﾞﾗｳﾝﾄﾞ整備等
令和７年度　　全面供用開始

| 担当課 | 教育委員会事務局特別支援教育課整備班 | 連絡先 | 078-362-9372　（内線 5727） |
|---|---|---|---|

| 事業名 | (拡)阪神北地域新設特別支援学校(仮称)の整備 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 予算額(千円) | １，３０３，２３０ | 国　庫 | 特　定 | 起　債 | 一　般 |
| | | 353,757 | 0 | 712,100 | 237,373 |

事業内容

県立こやの里特別支援学校の在籍児童生徒の増加に対応するため、川西市における新設特別支援学校の設置に向けた整備を推進する。

## １ 新たに整備する学校の概要

○ 設置場所　　川西市丸山台
○ 開校時期　　令和６年４月
○ 対　　象　　知的障害のある児童生徒
○ 設置学部　　小・中学部、高等部
○ 児童生徒数　　120人(予定)
○ 通学区域　　川西市・猪名川町

## ２ 校舎等の規模

| | | 延床面積(㎡) | 主な内容 |
|---|---|---|---|
| 校舎 | 普通教室 | 約 1,100 | 普通教室 |
| | 特別教室 | 約 1,400 | 理科室、音楽室、陶芸室、美術室、被服室、調理室、木工室、コンピュータ室、作業室、福祉実習室、自立活動室、プレイルーム、言語学習室、生活学習室 |
| | その他 | 約 4,100 | 校長室、事務室、職員室、会議室、保健室、特別支援教育相談室、図書室、多目的室、カウンセリングルーム、厨房・ランチルーム等 |
| | 小　計 | 約 6,600 | |
| 体育館 | | 約800 | |
| プール | | 約200 | |
| 合　計 | | 約 7,600 | |

## ３ 総事業費　　約 33 億円

## ４ スケジュール

令和２～３年度　　土地造成工事、基本・実施設計
令和４～５年度　　建設工事
令和６年４月　　開校

完成予想パース図

| 担当課 | 教育委員会事務局特別支援教育課整備班 | 連絡先 | 078-362-9372　(内線 5727) |
|---|---|---|---|

| 事業名 | （新）学校問題サポートチームの設置 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 予算額（千円） | １３８，５１５ | 国　庫 | 特　定 | 起　債 | 一　般 |
| | | 16,109 | 0 | 0 | 122,406 |

事業内容

複雑化する学校課題に対し、教育事務所長のリーダーシップのもと、効果的・機動的な支援を行う「学校問題サポートチーム」を設置し、県教育委員会事務局内の学校問題支援室との連携を図る。

○ 構 成 員
チームリーダー、学校支援専門員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー（社会福祉士等）、弁護士、精神科医、メンタルヘルスアドバイザー　等

○ 内　　容
・生徒指導に関すること（問題行動、不登校、児童虐待、性暴力等）
・教員の指導力向上に関すること（授業改善、学級経営、ICT 活用等）
・特別な支援を要する児童生徒への対応に関すること
・教職員の非違行為及び資質向上に関すること
・教職員のメンタルヘルスに関すること

○ 設置場所
６教育事務所

○ 目指す効果
・機動性強化により、複雑化する学校課題を多面的に分析・対応
・相談窓口一元化による相談しやすい体制
・事務局の学校問題支援室や各市町の専門家等との連携強化

| 担当課 | 教育委員会事務局義務教育課生徒指導班 | 連絡先 | 078-362-3773　（内線 5723） |
|---|---|---|---|

| 事業名 | (新)県立学校における農業教育の高度化事業［令和３年度２月経済対策補正対応］ | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 予算額<br>(千円) | ２４８，０００ | 国　庫 | 特　定 | 起　債 | 一　般 |
| | | 124,000 | 0 | 124,000 | 0 |

事業内容

専門的人材を育成するため、農業の食品加工に関する学科を置く県立高校に高度化施設・設備を整備する。

(1)概　　要　　農業食品加工物の衛生・品質水準の向上を図る学びを充実させるため、高度化された農業食品加工施設設備を農業の食品加工に関する学科を設置する県立高校（２校）に整備する。また、県下農業高校及び新規就農者に向けてこれらの施設設備を利用した農業食品加工研修会を開催する。

(2)導 入 校

○　県立氷上高等学校　食品ビジネス科
醸造実習畜産加工室棟改修及び機械整備（醸造(味噌・醤油）、ジビエ加工等)

○　県立農業高等学校　食品科学科
食品加工施設改修及び機械整備（農産加工、畜産加工、乳加工等）

(3) 整備内容
味噌発酵施設、乳酸発酵施設、コロニーカウンタ、エアシャワー等

| 担当課 | 教育委員会事務局高校教育課教育指導班 | 連絡先 | 078-362-3898　(内線 5840) |
|---|---|---|---|

| 事業名 | （新）県立学校 ICT 利活用サポートセンター設置事業 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 予算額<br>(千円) | ６１，５７２ | 国　庫 | 特　定 | 起　債 | 一　般 |
| | | 30,786 | 0 | 0 | 30,786 |

事業内容

県立学校における ICT を活用した学びを推進するにあたり、教員の負担軽減を図るため、ヘルプデスクによる各学校からの問合せ対応、人材の派遣によるトラブル対応など組織的な支援を行う「県立学校 ICT 利活用サポートセンター」を設置する。

## １　ヘルプデスクの設置

| | |
|---|---|
| ○内　　容 | ICT 活用に係る学校からの問合せに対して、電話対応や遠隔操作等により支援を行う<br>・端末の運用・管理に関すること<br>・教育用クラウドサービス等の活用に関すること<br>・ネットワークの運用・管理に関すること<br>・校内の情報セキュリティに関すること　　等 |
| ○運営体制 | 県教育委員会事務局及び県立教育研修所に専門的人材を配置 |

## ２　人材の派遣

| | |
|---|---|
| ○内　　容 | トラブル対応のため、ICT に関する知識を有する人材を派遣し、支援を行う<br>・ICT 機器の設定に関すること<br>・ICT 機器等の活用方法に関すること<br>・校内ネットワークのトラブル解消に関すること　　等 |
| ○運営体制 | 学校からの相談や問合せの中から現地派遣が必要な内容について人材を派遣 |

| 担当課 | 教育委員会事務局教育企画課教育情報班 | 連絡先 | 078-362-3779　　(内線 5746) |
|---|---|---|---|

| 事業名 | **(新)県民プレミアム芸術デーの開催** | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 予算額(千円) | ４００ | 国　庫 | 特　定 | 起　債 | 一　般 |
| | | 0 | 0 | 0 | 400 |

事業内容

県民の芸術文化に触れる機会を充実するため、県立芸術文化施設の無料開放や、特別イベントを実施する「県民プレミアム芸術デー」を開催し、以下の施設で展覧会の無料開放を実施する。

○ 実 施 期 間　R4.7.11～17(休館日を除く)

○ 実施期間中の各施設の展覧会

| 施設名 | 展覧会名 | 会期 |
|---|---|---|
| 美術館 | 関西の 80 年代 | R4.6.18～R4.8.21 |
| 人と自然の博物館 | 企画展<br>「植物とアート～蒲公英（たんぽぽ）と羊歯（しだ)」 | R4.3.26～R4.5.22<br>R4.6. 4～R4.7.31 |
| 考古博物館 | 常設展 | 通年 |
| 考古博物館加西分館 | 漢王朝のやきもの | R4.3.19～R4.9.11 |
| 円山川公苑（美術館） | 但馬ゆかりの画家たち　風景画を中心に | R4.4.23～R4.8.28 |

※歴史博物館は大規模改修のため休館中

(参考)

**１　県立芸術文化施設の無料開放**

○ 実 施 期 間　R4.7.11～17(休館日を除く)

○ 実 施 施 設　美術館、人と自然の博物館、考古博物館、円山川公苑（美術館)、横尾忠則現代美術館、兵庫陶芸美術館

○ 内　　容　展覧会の無料開放

**２　特別イベントの実施　（芸術文化課　5,000 千円）**

○ 芸術文化センター
バックステージツアー、スペシャルライブ等

○ 尼崎青少年創造劇場
バックステージツアー、劇団員おはなし会等

○ 美術館王子分館
スペシャルライブ等

※実施日程調整中

**３　ポスター・チラシ等による広報**

**（芸術文化課　400 千円　社会教育課　400 千円）**

| 担当課 | | 連絡先 | | |
|---|---|---|---|---|
| | 教育委員会事務局社会教育課施設・管理班 | | 078-362-9434 | (内線 5765) |
| | 教育委員会事務局文化財課文化財班 | | 078-362-3784 | (内線 5763) |
| | 教育委員会事務局体育保健課管理班 | | 078-362-3639 | (内線 5823) |
| | 企画県民部芸術文化課企画運営班 | | 078-362-3146 | (内線 2764) |

| 事業名 | (新)ひとはく開館 30 周年記念事業 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 予算額<br>(千円) | １，５００ | 国　庫 | 特　定 | 起　債 | 一　般 |
| | | 0 | 0 | 0 | 1,500 |

事業内容

令和４年度に開館 30 周年とコレクショナリウムのオープンを迎えるにあたり、記念式典をはじめとする記念事業の実施及び、これまでの活動の成果をもとに、大きく変化する社会状況に対応した活動を推進するための将来ビジョンを策定する。

**１ 記念式典の実施**

○ 実施時期　令和４年 10 月（予定）
○ 会　　場　人と自然の博物館コレクショナリウム、ホロンピアホール
○ 内　　容　記念式典、トークイベント

**２　新たな将来ビジョンの策定**

○ 策定時期　令和４年 12 月（予定）
○ 内　　容　将来ビジョンの検討委員会を開催し、今後の社会情勢も踏まえ、有識者をはじめ、子どもや若者などの意見も取り入れた将来ビジョンを策定する。

| 担当課 | 教育委員会事務局社会教育課施設・管理班 | 連絡先 | 078-362-9434　　(内線 5765) |
|---|---|---|---|

| 事業名 | (新)大中遺跡発見 60 周年記念・大中遺跡の魅力発信事業 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 予算額<br>(千円) | １，０００ | 国　庫 | 特　定 | 起　債 | 一　般 |
| | | 0 | 0 | 0 | 1,000 |
| 事業内容 | 令和４年度は考古博物館に隣接する大中遺跡が発見されて６０周年の節目となることを記念して、特別展を開催するとともに、遺跡の学術的評価と考古博物館の調査・研究の成果を発信するシンポジウムを開催する。<br><br>**○ 事業内容**<br>記念シンポジウムの開催<br>・開催時期　令和４年５月中旬～６月中旬（特別展開催期間中）<br>・開催場所　考古博物館<br>・発表者等　森岡秀人氏（関西大学）ほか | | | | |
| 担当課 | 教育委員会事務局文化財課文化財班 | 連絡先 | 078-362-3784　（内線 5763） | | |

| 事業名 | （新）第2期兵庫県スポーツ推進計画に係る地域スポーツ活性化への支援 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 予算額（千円） | １，０００ | 国　庫 | 特　定 | 起　債 | 一　般 |
| | | 0 | 0 | 0 | 1,000 |

事業内容

**１　第２期兵庫県スポーツ推進計画**

「第２期兵庫県スポーツ推進計画」（令和４年３月策定）に４つの政策目標（「子ども･ユーススポーツ」「生涯スポーツ」「競技スポーツ」「障害者スポーツの推進」）を掲げ、年齢・性別、体力や技能の程度、障害の有無にかかわらず、多くの県民が各々の興味・関心、適性に応じてスポーツに参画できる環境づくりに取り組む。

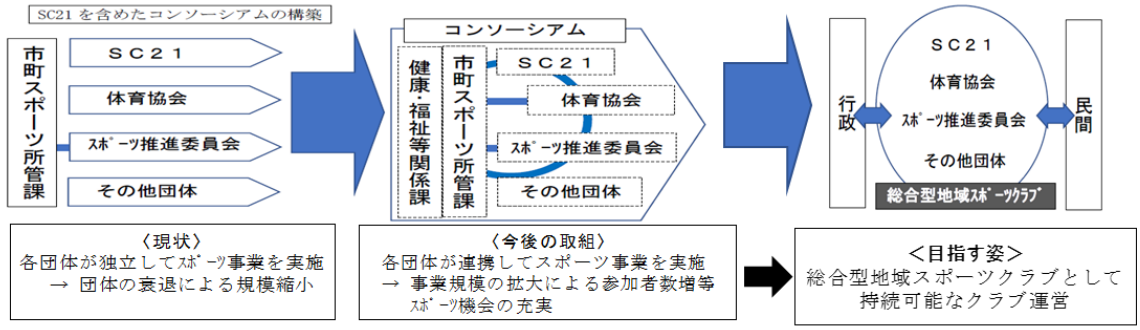
**２　地域スポーツ活性化支援事業：1,000 千円**

県民全体のスポーツ実施率向上を図るため、市町単位でコンソーシアムの設置を促進し、スポーツイベント開催に要する経費を支援

○ 内　　容　市町が主体となって、「ｽﾎﾟｰﾂｸﾗﾌﾞ 21 ひょうご(SC21)」を含めたｺﾝｿｰｼｱﾑの構築を推進し、地域の実情に応じた形で一層の活動機会を充実させ、SC21 の会員数増など運営体制の強化及び地域スポーツの活性化を図る

○ 補 助 対 象　市町、SC21、民間団体等で構成するコンソーシアム
○ 補 助 金 額　上限 10 万円　※但し、市町が負担する額と同額とする
○ 補　助　率　1/2

（参考１）事業スキーム




（成果目標）

| 指標名 | R4 | R5 | R6 | R7 | R8 | 最終目標（R8） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 成人のｽﾎﾟｰﾂ実施率 | 64.0% | 65.5% | 67.0% | 68.5% | 70.0% | 70.0% |

（事業終期）令和８年度

| 担当課 | 教育委員会事務局スポーツ振興課競技・生涯スポーツ班 | 連絡先 | 078-362-9446　（内線 5778） |
|---|---|---|---|

| 事業名 | （拡）スポーツ大会招致事業の実施（アーバンスポーツへの支援を追加） | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 予算額<br>（千円） | ６，０００<br>（はばタンスポーツ基金） | 国　庫 | 特　定 | 起　債 | 一　般 |
| | | 0 | 6,000 | 0 | 0 |

事業内容

全国規模の大会を主催する競技団体に開催経費を支援する事業に、アーバンスポーツ（※）を対象に追加し、幅広く本県の競技力向上及び県民のｽﾎﾟｰﾂへの関心を促進

※過度な速度や高度をはじめ、物理的に難易度が高い目標などに挑戦する、危険性の高いｽﾎﾟｰﾂ(ｴｸｽﾄﾘｰﾑｽﾎﾟｰﾂ)の中で、都市での開催が可能なもの
（例：ｽｹｰﾄﾎﾞｰﾄﾞ、ｽﾎﾟｰﾂｸﾗｲﾐﾝｸﾞ、BMX、ｽﾗｯｸｲﾝ、ﾊﾟﾙｸｰﾙ、３×３等）

○ 補 助 対 象　以下の団体が主催･主管する国際大会、全国規模の大会等
・兵庫県体育協会加盟競技団体
（新）・上部団体が JSPO（日本ｽﾎﾟｰﾂ協会）、JOC（日本ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ協会）に加盟している団体
○ 補 助 金 額　上限 100 万円/大会
○ 対 象 経 費　会場借上料、会場施設運営費等

（参考）兵庫県体育協会に加盟している競技団体下にある「３×３」、「ｽﾎﾟｰﾂｸﾗｲﾐﾝｸﾞ」については別事業にて競技力強化や体験教室開催等に係る支援あり

| 担当課 | 教育委員会スポーツ振興課競技・生涯スポーツ班 | 連絡先 | 078-362-9446　（内線 5710） |
|---|---|---|---|